

高松市美術館開館10周年記念

# 「ロダン展」

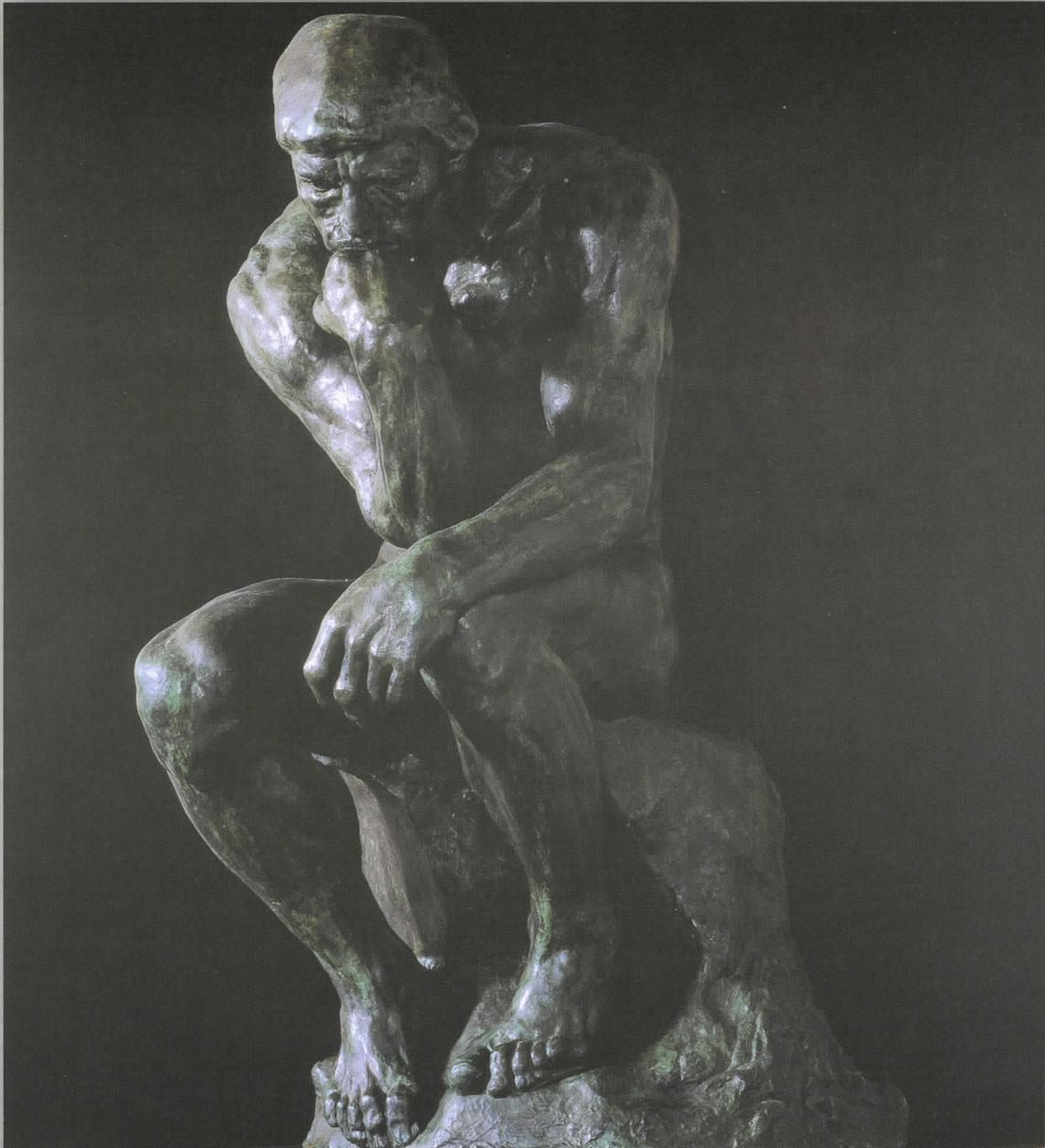
Rodin  
Exposition RODIN

1998年11月3日(火) - 12月13日(日)

休館日=月曜日(但し、11/23(月)は開館し、翌日11/24(火)休館) 開館時間=午前9時-午後5時(入室は午後4時30分まで) / 初日は午前10時開展式 / 毎週金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで)

入場料=一般900円(720円) / 高大生600円(480円) / 小中生300円(240円)

◎( )内は前売りおよび20名様以上の団体料金 ◎高松市に住所を有する長寿手帳・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料 ◎第2・4土曜日は小・中・高生無料  
主催=高松市美術館 / 読売新聞大阪本社 / 西日本放送 / 美術館連絡協議会 / 現代彫刻センター / フランス国立ロダン美術館 後援=外務省 / フランス大使館 / 香川日仏協会 協賛=花王株式会社 協力=日本航空株式会社



《考える人》1880年  
© photo Toshiyuki Ohashi



目がさめると、フランスだった。

高松市美術館  
Takamatsu City Museum of Art

〒760-0027高松市紺屋町10-4 TEL.087-823-1711



《カレーの市民・第1試作》1884年



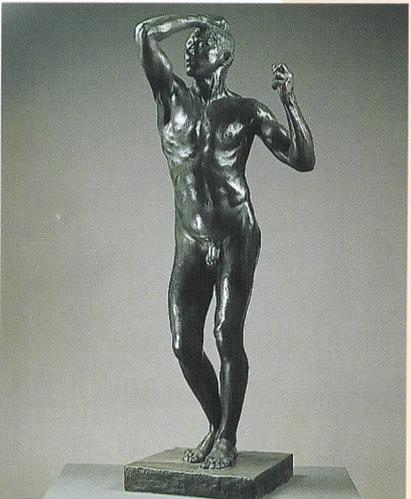
《ジャン・デール》1886-87年頃



《アルザスの孤児》1871年



《ピルサックの最終習作》1897年



《青銅時代》1875-76年



《武器をとれ》1879年頃

オーギュスト・ロダンは近代彫刻の開拓者であり、世界中で最もよく知られている彫刻家です。日本においても明治時代から雑誌「白樺」などを通じて作品や伝記が紹介され、大きな影響を与えてきました。

世紀の変わり目を生きたロダンは、芸術を自然の模倣、理想化であるとするサロンの硬直したアカデミズムに独自の闘いを試み、神聖で美しいものと定義づけられていた人体をよりリアルに、そして自由な発想に基づき表現することにより、内面に思想をたたえた新しい彫刻様式を生み出したと言えます。それは、芸術が新しい次元へと高められることを意味しました。近代彫刻、そして近代的精神の祖ともよぶべきロダンの功績は、あまりにも大きく、その芸術はいまだくみつくせぬ深みをたたえ私たちが魅了します。

本展覧会は、パリの国立ロダン美術館の全面的な協力を得て、その最先端の研究成果を取入れながら、世界中で普遍的評価を受けている数々の代表作品や大理石作品を一堂に公開するものであり、彫刻約70点、デッサン約25点、写真約25点が出品されます。

高松市美術館では、本格的な「ロダン展」を催すのは初めてのことであり、21世紀を迎えようとする今、もう一度ロダンの芸術の全容に立ち返ることは意義深く、また開館10周年記念にふさわしい展覧会となります。



《接吻》1886年



《フナイユ夫人》1897-99年

◎記念講演会

「ロダンのモダニティ」(仮題)

講師: ステファニー・ル・フォリック (フランス国立ロダン美術館研究員)  
Stéphanie LE FOLLIC

11月3日(火)午後2時より 高松市美術館1階講堂にて  
入場無料 先着200名様 通訳付

◎ギャラリートーク

当館学芸員が展示作品の解説をいたします。

11月7日、22日、29日、12月13日  
午後2時より 2階展示室にて

◎手による鑑賞

対象者◇視覚障害者

(晴眼者は原則として受け付けません。)

日時◇会期中

申込み方法◇予約制

(原則は5日前までに、087-823-1711まで)

\*但し、当日申込みも少人数であれば、可能な限り受け付けますが、お待ちいただく場合もあります。

学校行事の場合は、5人~7人で1グループとしますので、先生あるいは指導員が引率して下さい。

一般の場合も、7人までとし、必ず引率者あるいはボランティアを必要とします。

上記の条件を満たさない場合は、お断りすることもあります。

◎催し物のお知らせ

ミュージアム・ライブ「古典四重奏団」

11月17日(火)入場料:1,500円

◎次回展覧会

「大西忠夫展」平成11年3月5日(金)~22日(月)